

2009年度わが国貿易収支、経常収支の見通し(商品別輸出)

平成20年12月5日(金)

輸出	2007年度 (実績)		2008年度 (見込み)				2009年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸率%			
			伸率%	(見込み)	伸率%						
総額	85,116	+9.9%	42,901	+2.5%	40,221	7.1%	83,122	2.3%	77,560	6.7%	
EX 01 食料品	416	+10.4%	205	+2.7%	219	+1.1%	424	+1.9%	420	1.0%	5割も占める魚介類・調製品が減少。穀物は価格高騰により上半期の輸出金額が上昇するも、下半期は円高と価格下落により伸び鈍化。
EX 02 原料品	1,088	+15.8%	615	+14.5%	466	15.5%	1,081	0.7%	900	16.8%	5割を占める金属鉱及びその大半を占める鉄鋼スクラップ価格が高騰し、上半期の輸出金額が大幅増。下半期は、市況が悪化し9月以降鉄鋼スクラップ価格が暴落。加えて大口輸出先である韓国のウォン安により、輸出環境が悪化。
EX 03 鉱物性燃料	1,193	+68.9%	1,161	+114.4%	670	+2.9%	1,831	+53.5%	1,190	35.0%	軽油および灯油の輸出金額は上半期に100%以上の伸び、下半期は、エネルギー価格の下落と円高を背景に、軽油と灯油を中心に急速な純化が見込まれ、08年度の輸出金額は50%増程度。
EX 04 化学製品	7,820	+11.6%	3,973	+2.2%	3,881	1.3%	7,854	+0.4%	7,752	1.3%	世界的な景気減速(特に、米国をはじめとする各国の住宅市場の低迷や、自動車販売の不振が需要に大きく(影響すると予想される)による需要後退、過剰気味の供給体制等により、需給が大き(緩和、ただし、輸出金額の伸びは、上半期の好調な実績もあり、年度全体では若干増にとどまる。
EX 05 原料別製品	10,072	+12.0%	5,386	+7.1%	4,720	6.4%	10,107	+0.3%	8,630	14.6%	相場以降、海外市場で鋼材価格が大きく下落し、下半期から内外とも粗鋼減産の動きが強まる。鉄鋼輸出数量は暦年こそ過去最高を更新するが、年度下半期は大幅減。
05a 鉄鋼	4,144	+13.6%	2,417	+18.3%	2,030	3.4%	4,447	+7.3%	3,460	22.2%	相場以降、海外市場で鋼材価格が大きく(下落し、内外メーカーで下半期から減産の動きが広がる等、需給環境は急速に悪化。鉄鋼の輸出数量は08年のペースで過去最高の3,704万トンを上回るかと予測されているが、特に08年度下半期後半の輸出数量は大きく落ち込み、価格も上半期に比べ10%程度は下落。
05b 非鉄金属	1,601	+19.0%	793	1.4%	680	14.7%	1,473	8.0%	1,330	9.7%	銅及び同製品は、上半期の出荷数量ほぼ横ばいながら、銅地金を主因とした単価下落により、輸出金額10.4%減少。下半期は、銅地金下落の影響がより顕著になる可能性が高い。アルミ及び同製品は、上半期堅調な板需要が弱含みを続ける押し出し需要を補完していたが、金融不安に伴う世界的な不況の影響を受け下半期以降は需要減を免れない。相場下落に伴い輸出金額も大幅減。
05c 織物・繊維製品	816	+1.6%	393	6.2%	369	7.3%	761	6.7%	736	3.4%	繊維素材は、最大仕向け地である中国において先進国向け繊維製品の生産が低調となったことから失速したうえ、これまで堅調に伸びていた欧州向け高級素材も世界同時不況の影響で頭打ち。原材料価格高騰と円高が重なり、輸出採算は悪化。自動車など産業用途向けの原糸や不織布は、海外に代替品がな(非価格競争力)が強いため上半期は底堅く推移。
05d 非金属鉱物製品	960	+9.4%	487	+2.0%	487	+0.9%	974	+1.4%	922	5.3%	非金属鉱物製品は、原料価格高騰により上半期は価格上昇するも、下半期は景気悪化を受け伸び鈍化。ガラス及び同製品は、上半期は原料コストの圧力を受け価格が上昇し輸出金額増加、下半期は伸び鈍化。セメント価格は上昇するが、需要は下半期にかけて弱含み。
EX 06 一般機械	16,815	+10.2%	8,312	1.0%	7,749	8.0%	16,061	4.5%	15,258	5.0%	上半期は、約15%を占める原動機の輸出金額が減少(1.6%減)したことに加え、電算機類の部分品や電算機類(含周辺機器)の輸出金額も共に減少し、1.0%減。下半期は、円高の影響もあり、原動機、電算機類の部分品を中心に複数の品目の輸出金額の大幅な減少が見込まれ、08年度は4.5%程度の減少。
06a 電算機類(含周辺機器)	868	+2.5%	377	16.7%	372	10.5%	749	13.7%	708	5.5%	上半期は、電算機類、プリンター、デジタル複合機等の周辺機器を中心に輸出数量が大幅に増加(13.8%増)。一方、輸出価格は大幅に下落(26.8%安)し、輸出金額は16.7%減。下半期は、国内の生産・出荷の減速、世界経済の減速、円高の影響により、数量の伸び悩みと価格の下落が続く。08年度の輸出金額は13.7%減。
06b 電算機類の部分品	1,843	+0.7%	869	6.3%	870	4.9%	1,739	5.6%	1,620	6.9%	上半期は、価格が4.9%安、数量も1.4%減となり、輸出金額は6.3%減。日本製部品の価格が高いことを背景に、中国等で日本以外の国が部品を調達する動きが進んでいるほか、特殊要因(HSコードの分類改定により「電算機類の部分品」の一部が「通信機(部分品)」や「音響・映像機器の部分品」に組み入れられたこと等)によって輸出金額は減少しており、下半期は上半期と同様に、数量の微減と価格の下落が続く。08年度過期では5.6%減。
EX 07 電気機器	16,736	+2.0%	8,250	2.3%	8,044	3.0%	16,294	2.6%	15,969	2.0%	半導体等電子部品の減少に加え、電気計測機器も大幅に減少し、通信機器は景気後退の買い控えにより、輸出金額は減少。
07a 半導体等電子部品	5,068	+0.1%	2,519	2.7%	2,405	3.0%	4,924	2.8%	4,727	4.0%	世界的な景気後退により輸出金額は減少。
EX 08 輸送用機器	21,358	+13.1%	10,281	+2.0%	9,735	13.7%	20,016	6.3%	18,365	8.2%	上半期は、先進国の景気減速で米国向け自動車および自動車生産用部品が大幅に減少、EU向け自動車も減少したが、中国・ロシア・中東などの新興国、資源国向け自動車や整備で、輸送機全体としては増加。しかし下半期には、金融危機の影響が新興国にも及び、自動車及び自動車生産用部品が大幅に減少。
08a 自動車	14,673	+14.3%	7,202	+4.4%	6,417	17.5%	13,619	7.2%	12,257	10.0%	金融危機による景気停滞で米国、EU向け自動車も減少、特に米国向け車種構成がコンパクトカー・ハッチバックにことにより、単価も下落。
08b 自動車の部分品	3,382	+9.9%	1,615	4.4%	1,439	15.0%	3,054	9.7%	2,746	10.1%	上半期は、円高、米国での自動車生産減少から海外生産用部品が減少。下半期は、円高の加速に加え、米国以外の生産拠点も減産体制に入り、輸出金額の減少は加速。
08c 船舶	1,900	+19.9%	855	+2.0%	1,209	+13.9%	2,064	+8.6%	2,147	+4.0%	日本は2013年ごろまで契約が進んでおり、景気悪化による隻数の大幅減少は見込まれない。
EX 09 その他	9,617	+8.3%	4,718	0.4%	4,736	3.0%	9,453	1.7%	9,076	4.0%	これまで増加基調で推移してきた記録媒体や写真用・映画用材料が年初来減少に転じるなど、円高反転による価格競争力低下から幅広い製品分野で落ち込みが始まった。
09a 科学光学機器	2,142	7.8%	1,094	+3.7%	1,072	1.4%	2,165	+1.1%	2,100	3.0%	世界的な景気減速による設備投資案件の先送り、円高に伴う価格競争力の低下等より減少基調続く。

*金額は億円単位を四捨五入

*「」は前年度比増加、「」は減少、「」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している